

# 巻頭言

世話人 松岡元久

東北にも春とともに入春が来しました。雪どけとともに、新しい年度に向けて各界とも活動が始まります。数学教育界においては、昨秋の東京における ICM I—JSME 国際会議をはじめとして、現代化運動の再確認再検討がなされようとしております。

わが東北地区における数学教育界の活動も年ごとに活発となり、量質ともに進歩発展振興の道と歩んでおりますことは誠によろこびにたえません。私どもの会の諸学兄の活躍ものがましいものがあり、東北の後進性もはや感じられなくなつた昨今であります。

さて、このたび世話人のおどろいたことには、実に多くの、また、多様な分野における研究が実りつつあることと、今回の年報の発行にあたり、ひしひしと身を通つて感じました。本学会としては、はじめに論文収録の多さをそめて、皆様にお送りすることができるようになつたのであります。世話人としてこれほど嬉しいことはありません。

これに加えて、黒沢誠氏(前岩手大学長)の年会における記念講演、さらに、国際会議参加者代表として竹内芳男氏からの報告が載せられ、いずれもわれわれにとっては、教えられるべき内容が充実にあります。どうぞ、じっくりごらんください。

以上合わせて実に 90 ページにほんなんとする立派な年報をお届け致します。私どもの会もこれですっかりと大地に足をつけた学会として、勇往まい進できるというものです。

今後の会の発展と、会員のご研さんを祈つてやみません。

(1975年3月)